

## タチフウロ（フウロソウ科）

### 観察のポイント

「立ち」フウロとのことですが、ほっそりした体を隣の草にそっと寄りかけているほうが多いようです。昔は川崎でも咲いていたようですが、今では見かけることがなくなった花のひとつです。山の草原や林のまわりで見られます。種は、はじけて遠くへ飛ぶようなしくみになっています。はじけた後の形がオミコシの屋根の形ににているいませんか？

## アキノキリンソウ（キク科）

### 観察のポイント

日当たりの良い秋の野でスッと立つ姿をあらこちらで見つけることができます。名前は秋に咲いて花が美しい事から名づけられました。

## オミナエシ（オミナエシ科）

### 観察のポイント

日本の秋を代表する花ですが、野原ではなかなか見られなくなってしまいました。八ヶ岳では草原が少なくなってしまい、植林されたカラマツ林ばかりが多くなってしまった結果、オミナエシやキキョウのような日当たりの良い所に生える植物は少なくなってしまいました。

## ツルフジバカマ（マメ科）

### 観察のポイント

フジバカマという花の色に似た紫色の花でツル植物なのでこの名がついています。小さな花が多数集まっています。学習花壇のツルコーナーのアーチをおおいかくすほど、元気にのびてゆきます。似た植物にクサフジがありますが、クサフジのほうが全体に細く、花が咲くのは夏です。

## シラヤマギク（キク科）

### 観察のポイント

山の草原に一足早く、秋をつける、少しさびしげな花です。ひょろりと背が高く、1～1.5メートルになります。葉の下の方につく、心臓のような形の葉が目印です。長い柄にはヒレがあります。

## フジアザミ（キク科）

### 観察のポイント

日本一大きなアザミです！！この大きな葉はゴワゴワしていて、さわると痛いのですが、それとは逆に花をさわってみるとやわらかく実に気持ちが良いのです。花をさわるとニョキニョキと白い雄しべが頭を出します、なぜでしょう？考えてみてください。

## ヤクシソウ（キク科）

### 観察のポイント

黄色いキクのような花をつける草花はたくさんあります。その中でも、ヤクシソウのつちょうは、つぼみのうちは上を向き、花が咲き終わると下を向くことです。葉が茎をだくようにしている様子も観察してみてください。

## マツムシソウ（マツムシソウ科）

### 観察のポイント

花を何個も見てください、咲きはじめてから種までさまざまな段階で、どれもおもしろい形をしています。外側の花と、中心の花とは花びらの形がちがいます。種は丸い形をしていて、巡礼の人が使う鐘の「松虫」に形が似ているので名が付いたといわれています。



シラヤマギク (キク科)



タチフウロ (フウロソウ科)



フジアザミ (キク科)



アキノキリンソウ (キク科)



ヤクシソウ (キク科)



オミナエシ (オミナエシ科)



マツムシソウ (マツムシソウ科)



ツルフジバカマ (マメ科)